

## オーディオ実験室収載

### iPhono 導入記(10) —アナログ盤からの CDR 作成(2)—

#### 1. はじめに

前報(7)と(8)ではアナログ盤から DSD 録音を行ってみましたが、前報(9)に引き続き iPhono の出力を DA-3000 に入力し、44.1KHz16bitWAV に録音し、CDR を作成してみます。

#### 2. アナログの DSD 変換録音と再生の方法

次のルートで iPhono の出力を DA-3000 に入力し、リアルタイムに 44.1KHz16bitWAV のフォーマットに変換して録音します。

iPhono → DA-3000(44.1KHz)

ここで DA-3000 には GPS-777 からクロック入力を行います。

カートリッジは Ortofon SPU Synergy を使用し、負荷インピーダンスの調整前報(8)までの結果から設定します。使用する盤に対し、イコライザーカーブは、Decca カーブ、RIAA カーブ、Colombia カーブを使い、イコライザーカーブの選択が CDR に記録されるかどうかを評価します。

試聴ルートは下記のとおりとします。再生ソフトは HQPlayer Desktop 3 ASIO を使用して、256sDSD ないしは 512sDSD で送り出しています。

PC → micro iDSD → DA-3000 (44.1KHz) → MYTEK DIGITAL 192-DSD  
(DA-3000 よりクロック供給)

ここで、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給します。PC と micro iDSD には USB リベルメント 1.3m で接続しています。

録音した音源は外付け HDD に収納し、CDR にも焼いて Plextor Premium 2U から再生します。これらには USB リベルメント 1.3m で接続しています。

Plextor Premium 2U → PC

Buffalo 製 HD-LSU2D → PC

#### 3. アナログのリアルタイム WAV 変換録音の試聴結果

使用した盤は、前報(9)と同様、カザルスのバッハ：無伴奏チェロ組曲 5 番 (EMI GR-2018) とアンセルメ／スイスロマンドのファリヤ：三角帽子 (LONDON SLC-1138 ffss) ですが、44.1KHz16bit WAV、CDR とも Decca カーブ、RIAA カーブ、Colombia カーブの違いが記録されました。両盤とともに前報(9)と同様、Decca カーブがバランス良く聴こえました。カートリッジを替えててもイコライザーカーブの

印象は大きく変わることはないようです。また、これまでカートリッジの音の違いを強く感じていたのですが、負荷インピーダンスの調整をするようになってからカートリッジの音の違いをそれほど感じなくなりました。

#### 4. まとめ

前報（9）同様、カートリッジを替えても 44.KHz16bit WAV、CDR ともイコライザーカーブの違いが記録されました。

以上